

姫路大学大学院看護学研究科  
Newsletter No. 8

Graduate School of  
Himeji University

Master of Nursing Science  
Doctor of Philosophy in Nursing Science

## Contents

国際学会で発表してみよう

看護学研究科准教授 古川 智恵

身近になってきた看護系大学院

看護学研究科准教授 小山 恵美子

博士前期課程修了生修士論文タイトル

トピックス

大学院生の声

博士前期課程 1年生 新井 裕美恵

## 国際学会で発表してみよう

看護学研究科准教授 古川 智恵

ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) の目覚ましい発展により、ネットワークを活用した人と人との繋がりは、国境を越え、世界中の看護師と容易にコミュニケーションをとることができ、看護の領域はますます国際化が進んでいる。例えば、日本看護協会 (Japanese Nursing Association: JNA) は国際看護師協会



(International Council of Nurses: ICN) に加盟しているため、日本看護協会の会員であれば自動的に ICN のメンバーとして国際学会で発表することができる。

近年は COVID-19 の影響により国際学会も延期か WEB 開催に切り替わっており、海外旅行を兼ねての国際学会の参加が難しい状況ではあるが、今後、COVID-19 の感染状況が沈静化した際には、世界中で様々な国際学会が開催され、国際学会での発表に対するモチベーションの上昇に繋がるのではないかと考える。

国際学会で発表するためには、最初の準備として、関連する学会の HP から情報を得ることが重要である。特に、宿泊先のホテルから会場までのアクセスは慎重に検討する必要がある。安いホテルを探して、思わぬトラブルに遭うことがある。

発表する学会が決まったら、次は、抄録の作成である。フリーの翻訳サイトは抄録を作成するのに便利であるが、日本語と英語では書き方が異なるため、英語に自信がない場合は、翻訳の専門業者に依頼することも一つの方法である。しかしながら、翻訳が必ずしも著者の意図に沿っているとは限らないため、提出前には著者の責任で見直す必要がある。また、抄録の登録の際には、発表形態の選択が必要である。学会によっては口演のみとしている学会もあるため、発表を検討している学会がこれまでにどのような発表形態を用いているかの情報収集は必要であろう。発表形態には "Oral session" (口演), "Poster" (示説) などと表記されているが、国内学会と同様に希望通りの発表形態になるとは限らない。私も、これまで数回 Poster から Oral session に変更になった。

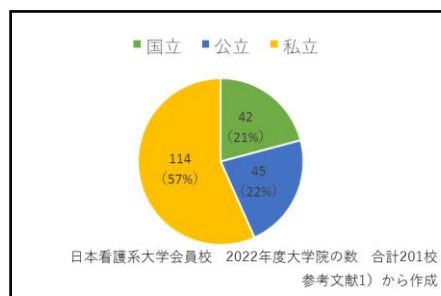
英語で発表するということはとても緊張するし、無謀に思えるかもしれないが、世界中の看護師と、自分の研究について Discussion できる機会は貴重であり、次の研究への着想にも繋がる。皆さんも、是非、一度は国際学会にチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

## 身近になってきた看護系大学院

看護学研究科准教授 小山 恵美子

我が国の看護教育課程の高度化の中で、国立大学では1979年に千葉大学、私立大学では1980年に聖路加看護大学、公立大学では1997年に兵庫県立看護大学が、初めて看護学研究科を設置した。2022年12月には、日本看護系大学協議会の会員校<sup>1)</sup>の大学院は201校となり、専攻別では217専攻数で報告されている。40年余りで看護系大学院は急速に増加し、姫路大学でも大学院看護学研究科が2017年に開設された。このように看護師が大学院で学ぶ場所が全国で整えられた。

私自身が大学院に入学したのは2000年4月で、県内にはすでに数カ所看護系大学院が開校されていた。看護師として臨床現場で働き、将来大学院に進学するとは全く考えていなかったが、職場でキャリアを積むに従い、研究や経験に限界を感じ、ブラッシュアップするために進学した。大学院では、褥瘡に関連したテーマを、修士と博士後期課程を通じて研究することができた。その中で学んだことを職場の多職種にも伝え、患者さんの治療や看護に役立てることができたと感じている。臨床に身を置きながら大学院で学ぶことは、知り得た最新の情報での看護を実践することができ、大変有意義であった。



また、大学院では他の学生の研究報告を途中経過も含めて聴くことができるため、自分が行う以外の研究方法も学ぶ機会となった。研究の方法は多様にあるため、学会での研究報告や論文を読むときに役立った。院内での看護研究では、指導する側も指導される側も知識が不十分で、また時間的制約もあり不安を感じながらの研究であったが、大学院では適切に指導を受けることができるため、楽しく研究を行うことができた。また、相談に乗ってくれる指導教員に出会えたことは何よりの宝で、さらに大学院で出会った人たちとは今でも交流し、自分を成長させてくれる存在である。本当に進学して良かったと感じている。

臨床で勤務を続けながら大学院で学ぶことは、所属先の理解、学習時間の確保、学費の準備など調整が必要である。認定看護師や専門看護師のように診療報酬に直結する資格でなければ、所属している施設にとってのメリットが分かりづらい。所属先の理解や周囲がこころよく協力してくれるためには、大学院修了後、多くの看護師が臨床や社会で活躍することが大切であるが、同時に、大学院に進学しやすくなるような制度の整備も必要と考える。

現在、看護系大学院が増加し、本研究科のようにリモートで授業を行うところもある。以前より臨床で勤務を続けながら、大学院で学びやすくなっていると思う。今後、多くの臨床看護師が大学院で学び、自己研鑽だけでなく、臨床・教育・研究分野で活躍し、またそれを支援する体制が充分整備されることを願いたい。

### <参考文献>

1) 一般社団法人 日本看護系大学協議会 2022年度会員校(大学院一覧), 2023/2/13, <https://www.janpu.or.jp/campaign/file/glist.pdf>



## 《 博士前期課程修了生の修士論文タイトル 》

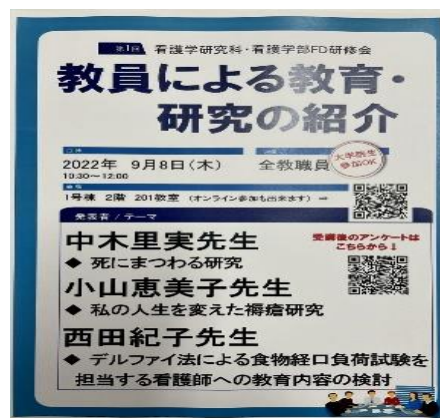
博士前期課程 公開研究成果発表会が2023年2月25日（土）に開催し、5名の学生が発表し修了しました。

- ・ 介護老人保健施設に勤務する介護職が看護職に期待する役割  
～ 看護職の認識との相違 ～ 有吉 沙妃
- ・ 精神科看護職の感情労働と怒りの関連 橋詰 広嗣
- ・ がん終末期患者の積極的治療中止の話し合いの同席における看護師の体験  
— 看護師の困惑感に焦点をあてて — 川浪 阿紗美
- ・ 看護師長が看護部長のことばで影響を受けたこと  
— 部下育成の手がかりを探る — 樋口 靖子
- ・ 「クローン病患者と睡眠障害の実態調査」  
— 疾患活動性QOLとの関連性を探る — 藤原 さおり

## 《 トピックス 》

### 看護学部・看護学研究科のFD研修会の開催

姫路大学大学院・看護学部FD研修会が9月8日（木）10時30分から「教員による教育・研究の紹介」というテーマで、HYFLEXにより研修会を開催し、3名の担当教員の発表がありました。それぞれの教員が取り組んでいる研究について知る機会となり教員・院生共々大いに刺激を受けました。オンデマンドでも一部配信を行っています。



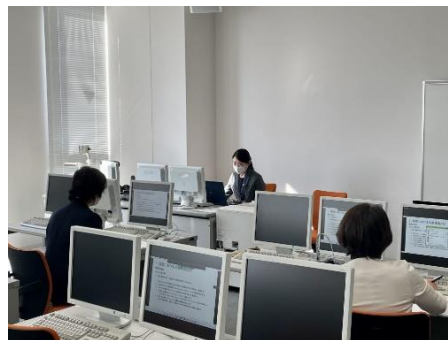
### 博士前期課程中間発表会の開催

博士前期課程の中間発表会が9月17日（土）13時から開催され、2年次生6名が対面で発表しました。大学に出来なかった参加者はオンライン参加で聴講しました。2年次生はプレゼンテーション能力も向上した発表会となりました。発表後も教員と意見交換を積極的に行い、充実した発表会となりました。



## 看護学研究科FD研修会の開催

11月19日(土)10時から、「本学の契約ツールを用いた文献検索の方法ー英語論文の検索に焦点をあててー」をテーマにFD研修会を開催しました。研究における文献検索、文献データベース、検索事例などの研修内容でした。博士後期課程の学生からは、よく理解できたなどの意見があり、今後の研究に役立つ内容の研修となりました。



## 博士前期課程1・2年次生中間発表会、後期課程1年次生研究発表会を開催

11月26日(土)14:00から博士前期課程1・2年次生の中間発表会9名、後期課程1年次生1名の研究発表会をハイブリッド方式で開催しました。M1の学生は今回が初めての発表でしたが、文献をよく読んでいるという発表内容、M2の学生は4回目の発表だったので発表内容もブラッシュアップされた内容、D1の学生は発表内容に厚みがありM1、M2の学生も参考になったという内容となり、学生や指導教員が今回の発表に対して一生懸命に取り組んでいる様子がうかがえました。



## FD研修会の開催

姫路大学大学院・看護学部FD研修会が2月15日(水)17時00分から名桜大学のグレッグ美鈴教授による「質的研究の論文指導と審査」というテーマで、HYFLEXにより研修会を開催しました。質的研究の指導の実際、分析上の問題と指導、論文審査の評価基準などの講演内容でした。指導教員によって現在大学院生に指導している研究が、更に質が高くなると思われる研修となりました。

2022年度 第3回 看護学研究科FD研修会

### 質的研究の論文指導と審査

日時 2023年2月15日(水)  
時間 午後17時～18時30分  
場所 新館号棟201-202教室  
ハイブリッド方式・オンライン参加可

参加コード⇒  アンケート⇒ 

講師  
グレッグ 美鈴 Misuzu F. Gregg 先生  
公立大学法人 名桜大学  
大学院看護学研究科教授  
博士後期課程研究科長  
University of Colorado Health Sciences  
Center, Ph.D. in Nursing Program 修了  
著書:  
よくわかる質的研究の進め方・まとめ方第2版  
看護研究のエキスパートをめざして 他

## 博士後期課程 2・3 年次生中間発表会を開催

2月18日（土）11：00から博士後期課程の2・3年生による中間発表会がハイブリッド方式で開催され、8名の学生が発表しました。これまで遠隔で指導を受け、大学には3年ぶりに登校した学生もいました。発表は後期課程の学生らしい内容となり、質疑応答なども教員・学生が活発に行っていました。今後、博士論文として完成できるように頑張っていく姿がありました。



---

---

### 《 大学院生の声 》

新井 裕美恵さん

（博士前期課程1年生 成人・高齢者看護学分野）

現在、訪問診療専門のクリニックに勤務しており、2022年4月姫路大学大学院博士前期課程に社会人学生で入学する。

#### —大学院に行こうと思ったきっかけは？—

看護師として約10年、病院や訪問看護、在宅診療クリニックなどに勤務し、病院から在宅まで一通り経験した上で、私が今まで経験を基にやってきた看護を改めて知識として学びたいと思ったことがきっかけです。もともと大学を卒業してから大学院のことは少し考えていたのですが、経験を積んでからの方がいいかなと思っており、10年程経験を積み、今後どのような看護をしたいのかと考えたときに、知識に基づいた根拠を持って看護をしたいと考え、大学院に行こうと思いました。

#### —他の大学院と比べましたか？—

それまでに他の大学院の方に見学は行っていましたが、看護研究科というのではなくて専門看護師育成のようなところだったので、見学した上で、そこではないかなと思いました。

また、母校である姫路大学より大学院の案内をいただき、教育目的や働きながら履修できる環境なども整っていたことから姫路大学大学院を選択しました。

### —大学院の授業はどうか？—

今まで理論というものをしっかりわかっていなかったと思います。実務でこれまで私が行ってきた看護というのが、経験に基づいたものが殆どだったのですが、それを理論的に学ぶことで更に理解でき、これまでの看護実践で間違っていなかったんだということが分かり、自信に繋がりました。

看護理論は、学部生の時はさわり程度しかしていませんでした。自分自身で理論を実践にどのように組み入れていくのかということを変更して考えてみると、すごく理論を活用する場面がたくさんあるんだということが実感できたので、看護理論の授業が印象深く残っています。

### —現在看護師をしながら、大学院で学ぶことについて（オンライン授業の事など）—

働きながら通う上で、オンラインはすごく助かっています。授業の時間も、私の仕事が終わってからと融通もして頂いています。大学院の方々に助けて頂いた上で、職場の方の理解と協力もすごく大きいので、それがなくなかなか続けられないかなと思います。対面の授業が無いわけではないですが、土曜日に授業を実施していただいたり、すごく助かっています。

### —中間発表会はどうか？—

人前で発表をすることが得意ではなく、自分の考えをきちんとまとめて、言いたいことを他人に理解してもらえるように伝えるということがとても難しいです。自分の考えを言語化するところにすごく苦戦しているのですが、いろんな先生方の意見を頂いて、そういうところが自分に足りてないところであるとか、どういう風に伝えたら言いたいことが伝わるかといったところを、今学んでいる最中です。

### —大学院生として今後取り組んでみたい事はありますか？—

まずは自分の研究をしっかり進めたいなと思っています。大学院に通っているからこそ先生方と色々な関りを持っているので、そういったものを大切にしながら、今後の自分の仕事に対しても活かしていけるように取り組んでいきたいです。

### —最後に—

今、病院や訪問看護など看護師の活躍する場はあるのですが、今後はもっとそういった場が広がっていくのではないかなと思っています。自身が学んだことを活かし、今後も地域で看護師として活動するなかで、これから看護師として活躍する人とか、今活躍している人達に対しても、もっと看護の可能性というものを広げていけたらなと思っています。





## 編集後記

姫路大学大学院看護学研究科では、新型コロナウイルス感染症が終息しても、今後もほとんどの講義は、インターネットを利用して自宅や職場で受講できるようにしております。また講義は、平日の夜間や土曜日などに開講しており、日程は教員と相談のうえ決めることができます。1年に数回開催している研究の中間発表会では、対面、オンラインを併用して実施しています。

さて、日本政府は、今春新型コロナウイルス感染症を、現在の2類相当から5類に移行することを正式に決定しました。それに加え、マスクの着用について3月13日から屋内・屋外を問わず個人の判断に委ねる方針が全国民に対して決定され、さらに学校現場では、新学期となる4月1日から着用を求めないことを基本とするとしています。マスクがなくなることは、子どもの成長や教育にはよいことだとは思いますが、ウィルスの感染力がなくなったわけではありません。日頃の感染予防の大切さは変わらないので、基本的な感染対策と状況を注視して柔軟に対応することが必要だと感じています。

大学院ではNewsletterを引き続き発刊し、教育・研究者や地域の人々に大学院を身近に感じていただきたいと考えております。次号は2023年6月頃にお届けできる予定です。

大学院 HP



Instagram



姫路大学大学院看護学研究科 Newsletter

2023年2月28日発行

■編集・発行

姫路大学大学院看護学研究科

〒671-0101 兵庫県姫路市大塩町 2042 番 2

TEL : 079-247-7301

E-mail: daigakuin@koutoku.ac.jp



 **姫路大学**  
Himeji University